小諸城跡 (小諸市)

築城年代:天文23年(1554年)、築城者:武田信玄

小諸城跡鳥観図/小諸城は城下町から見下ろせるような立地条件で築かれた城で、穴城とも呼ばれていると云う





小諸城 大手門

Otemon The Maine Gate of Komoro Castle



小諸城は日本で唯一といわれる、城が城下町より低い位置にある「穴城」です。 大手門はその入口の城門で、ここから本丸に向かっては、迷路のような道と 4つの門で敵の侵入をさまたげています。また天然の地形を生かし、側面の 谷(田切地形)と背後の千曲川に面した断崖で守りを固めていました。 この城は、戦国後期に武田信玄の軍師の山本勘助により縄張りがされたと伝 えられ、江戸初期に城主・仙石秀久により城郭や門が整えられました。

This castle took shape in its original form in about 1554 during the latter half of the Warring States period, and was completed about seventy years afterwards. The casties of Japan were usually constructed in high places, above towns, but this is Japan's only castle that was positioned below such a level. 'Otemon Gate' is the maine gate to the castle and was designed to halt the invasion of enemies with a maze-like set of passages and four further gates leading to the main citadel. On the sides and the back of the castle lie natural valleys and the cliffs that helped protect it from enemy invasions.

国指定重要文化財 小諸城大手門 (平成5年12月9日指定)

大手門またの名を瓦門といい、小諸城主仙石秀久が築造した正門です。現存の門は、慶長 17 年 (1612)の建立と言われています。 五間の櫓門、入母屋造の本瓦葺で北面しており、一階は桁行五間、 梁間二間とし正面中央間の鏡柱等太い柱を用いるなど豪壮な構えとなっています。二階は桁行七 間、梁間三間、垂木には反り増しがあり、東西二室で畳敷きとし座敷のようになっています。 入り口は東側中央間とし板縁を設けてあります。

近世初頭の大型の城門として、日本の城門発展の過程を知るうえに価値が高く重要な建物です。

Komoro Castle Otemon Gate (National Important cultural property)

This gate was built by the lord of the castle, Hidehisa Sengoku, in 1812 during the early Edo period. The gate is very large with thick pillars and is magnificent in appearance. The gate has a tile roof which was rare in those days. It is an important building, and significant in the development of Japanese castles.

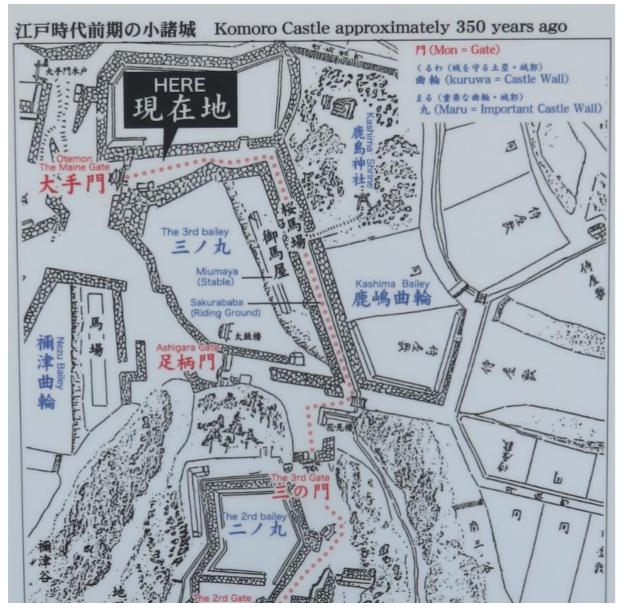
三の丸と桜馬場跡

江戸時代、ここからから三の門の間は「三の丸」で、台地を生かした城郭がありました。大手門を入っ た少し先で道が狭くなっているのは、門の中に攻め込んだ敵の進路を妨害し上から一気に攻撃す るためです。その先を曲がると、三の門に向かってもぐっていくような、天然の谷を生かした坂 道となっていました。江戸前期の絵図には、この道は「桜馬場」、道の北側は「御馬屋」とありま す。馬場沿いには桜が植えられ、「花時は見渡す限りに桜雲万里天を覆うの一代美観たりき(小諸

Sannomaru, Sakurababa ruin

Between the car park and railroad tracks lies the bailey of Komoro Castle, which is called Sannomaru. The narrow paths and numerous corners in the balley made it easy to attack enemies from above. During the Edo period, these paths to the castle were used as Baba, meaning horse-riding grounds. Being famous for its cherry blossoms, it became known as Sakura Baba.

大手門と三の門の間が三の丸/家臣の登城には足柄門を使用していた/桜馬場、御馬屋の文字も見える







城内側から見た大手門/大手門は本丸から数えて四番目の城門に当たるため「四の門」とも呼ばれるらしい





日本城郭建築初期の代表格

小諸城 大手門 (国指定重要文化財)

藩主仙石秀久が小諸城を築いた時代の建築。 小諸城の正門(四之門)。 慶長十七年 (一六一二)

二層入母屋造の楼門で、石垣と門が一体化していない 一階が敵の侵入を防ぐ強固な造りに対し、二階

は居館形式をとっている事など多くの特徴があります。 この門を建てる際に、大工は江戸から呼び、瓦は三

河 (現在の愛知) から運んだとされ、当時はまだ瓦葺

の屋根が珍しかったため「瓦門」とも呼ばれました。

明治維新後は民有となり、小諸義塾の仮教室として、

また、料亭として利用されてきましたが、平成二十年、

江戸時代の姿に復原されました。

この実戦的で、華美な装飾をはぶいた質実剛健 な建

築は、 青森県の弘前城とともに大手門の双璧といわれ

ています。

小諸市

「小諸城 大手門」とある













説明板が立っている



小諸宿本陣主屋

光寺詣などの街道交通の要衝として隆盛 を極めまし 東への出入口として、また参勤交代や善 けられました。 に宿駅伝馬制が敷かれて「小諸宿」が設 慶長十六年(一六一一)「北国街道」 た。 その後「小諸宿」は、関

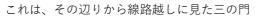
ました。 紀初頭の建築と推定され、当時は、市町 に現存する国指定重要文化財「旧小諸本 建の豪壮な建物で、十八世紀末~十九世 宿本陣主屋」は、木造切妻造桟瓦葺平屋 参勤交代の大名などが休泊した「小諸 (問屋場)」のとなりに建てられてい

な資料とともに、 けて旧地にほど近い現在地に建物を移築 諸市に寄贈されました。市ではこれを受 び桃源院のご厚意により、建物一式が小 庫裡として使われてきましたが、このた 市鳴瀬の桃源院に移築され、 したものです。 その後明治十一年(一八七八)に佐久 往時の小諸宿繁栄をしのぶ貴重 歴史資料館として公開 寺の本堂や

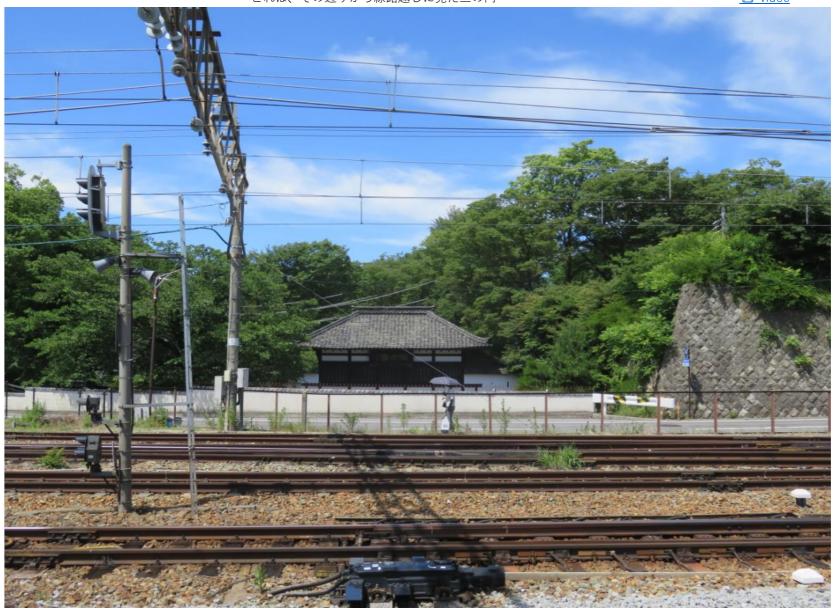
平成九年七月

小諸市教育委員会











地下道を通って、三の門方向へと進む



前方が三の門 <u></u> <u></u> video



標柱には「明和2年(1765年)再建/両塀に矢狭間鉄砲狭間の戦用式な建物」と記されている



武田氏の小諸城は、西側を千曲川の	の断崖に守られ、北と南を浸食谷に守れ	ていたと云う/南側は大手門〜三の門の	ロエリア(三の丸)が守備を固める
7 +	たます。 大学は両側 でいます。 鉄道は両側	が施してあります。 に再建されて現在に至っています。	水により三の門は流失し約二十年後の明和年代小諸城は慶長和年間(関海後)にわたって時の小諸城は慶長和年間(関海後)にわたって時の山様に一連の造営の中で創建されたものです。 「一年の時代」の門は流失し約二十年後の明を大手門と 「一年の時に、」の門は流失し約二十年後の明を大手門と 「一年の時に、」の門は流失し約二十年後の明和年代 「一年の時には、一年の明を表示といる。」の門は流失し約二十年後の明和年代 「一年の時には、一年の明を表示といる。









料金所を入り、ここを右手に進む/左手に行くと動物園

右手は復元された二の丸の石垣/右上が二の丸跡









右手に折れた先の様子



そこで振り返って、三の門方向を見たところ







二の門跡を進み、振り返って見たところ/左上が二の丸跡、右上が南の丸跡



そこで、右手を見たところ/前方には本丸へと渡る黒門橋がある/西方向を見たところ



そこで振り返ると、二の丸に上る石段がある

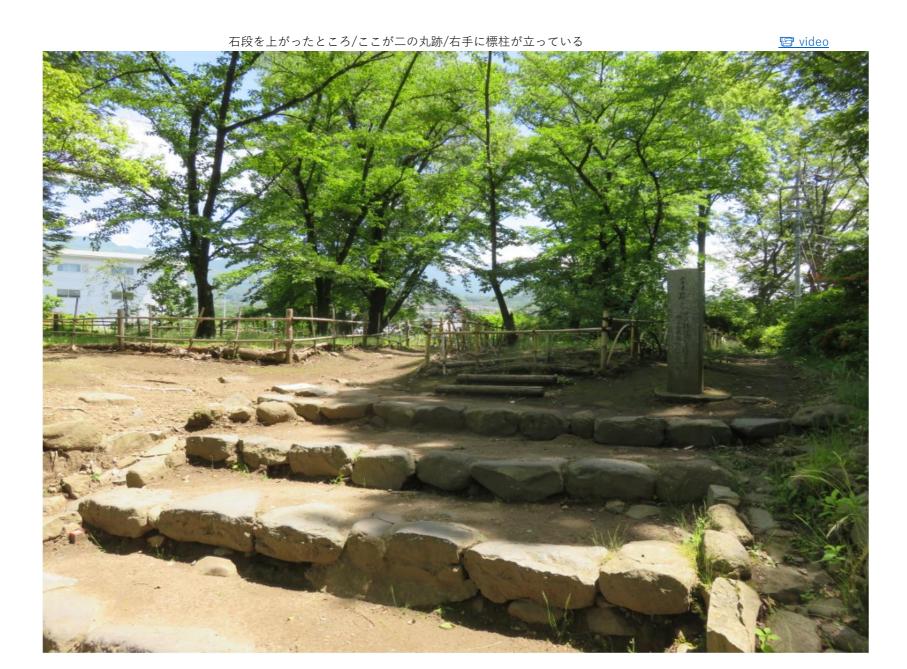






そこで、左手を見たところ/こちらは番所跡であったようだ





「旧白鶴城という徳川秀忠が関ケ原合戦に赴く際逗留したところ」と記されている





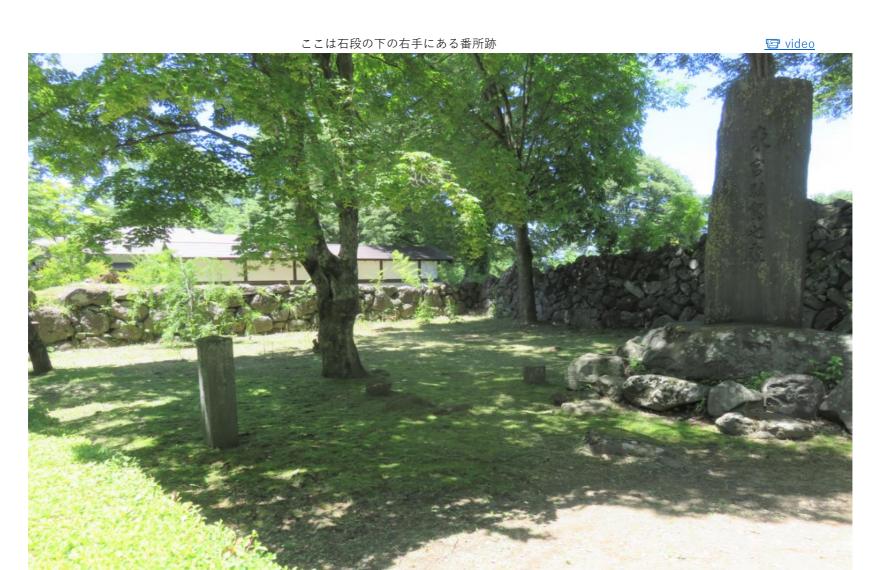




そこで、右手(北方向)を見たところ/下は駐車場になっているが、左手から北谷が入り込んでいた







「番所跡」と記されている/所謂、検問所

番所跡のエリアを西側から東方向に見たところ/右手前方に二の丸へ上がる石段が見える













正面の石垣には鶯石が嵌め込まれている



標柱に「鶯石」とある









同じく、左手を見たところ/こちらも南の丸の一部のようだ



そこで、左下を見下ろしたところ/こちらは木谷と呼ばれる谷底のようだ



その左手を見下ろしたところ/木谷の向こうは動物園のエリアとなっているようだ















これはその石段を上って、南の丸を東方向に見たところ











右手には的がある/このエリアが北の丸跡



振り返って、南の丸方向を見たところ



これは、その先にある懐古園稲荷神社



懐古園稲荷神社由緒

与板 後 9 藩より遷座されました。 国与板藩 稲 荷神社 から小諸藩に入封された際、 は 藩主牧野公が元禄十五年、 ともに

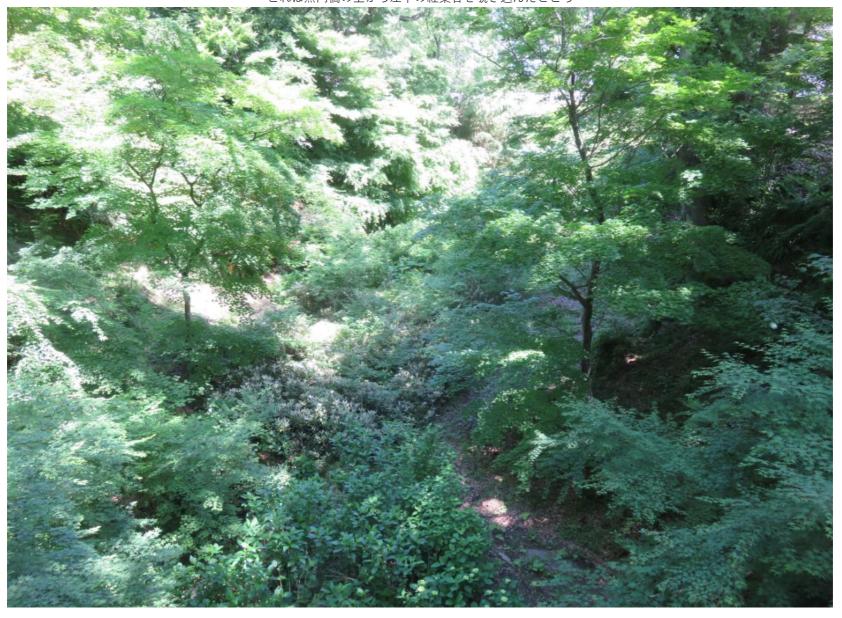
ほどの あ 十二年には、 内安全の守り神として崇敬されていました。 ります。 め 格式をもっ は 御城 神 下赤坂 祇官統領公文所よ た、 の地に祭ら 霊験あらたか n り神 商 な稲荷神社 売繁盛 璽を授かる 文政

遷座され は 内富士見台に稲荷社 後、 諸城 か 戦 国時 諸城 御 を守り続 この社と赤坂 代に武 め 城 大願 中繁盛安全、永久大安の守り神とし 7 は、 お 成就 田氏 け、廃藩まで祭られてきました。 1) 別 ます に 2 稲荷は合併され 城 が祭られ の守護神として多く の由緒 内 鎮護 の言 0 ていました。 守 護 い伝えもあ て現在 神とし の地に 7 城

平成六年四月

稲荷社氏子中





正面が本丸の石垣/説明板が立っている



右手に進むと、石垣を回り込んで天守台の石垣に至る/左手に進むと、本丸内にある懐古神社へ至る













懐古神社の由緒

(沿革) 懐古神社は明治十三年門鹿藩後荒れ果て 二社と藩主牧野公歴代の霊とを合祀した懐古神社を 城の鎮守神として祀られていた、天満宮、火魂(荒神)社 小諸城跡を整備し懐古園となすにあたり 承丸東北に

(祭神)天満宮の祭神は菅原道真公で天神様ともいわ れったもので面社と 火魂杜(荒神社)の祭神 安置したと小諸温古雅記に 記されています の木像を発見したので、紅葉・丘の荒神社と並べて 空濠改修中紅葉谷の土中から光を放っていた天神様 小諸城を最初に築きはじめた大井氏が城の鎮守とし については天正十二三年の頃城主松平康国公が城内 京都北野天満宮は特に有名です、当神社の天満宮 学問の神様であります。 奉祀して参りま は火之が具土命で竈の神 其の後の城主が城鎮守の社と た 九州大宰府天滿宮

(祭日) 四月二十四日·二十五日 秋 九月六日

其の他)神社境内には次のものがあります 天守台 鏡石 懐古園の碑 天然記念物神代樓 当城の縄張り 題額は 天守関は寛永六年 落香により焼失 松平因幡守憲長公称手植 樹令三百五十 勝海舟の書 た武田の正山本勘介晴幸 愛用のる

ありましたが 徴古館が出来ましたので そのき内様(徳川家光公)、阿福様(春日局)の水像が置いた甚五郎作 喜内様 阿福様像 有福様像

さて、懐古神社方向へ進むと、手前に「お駕籠台跡」がある





そこを右手に進むと懐古神社の鳥居が立っている



そこで、右手に本丸の石垣を見たところ/野面積みの石垣が苔むしている







「懐古神社」の神額



これが懐古神社の社殿

快快古神社

九月六日二十吾 の虚と合祀



境内には「小諸領境界石標」なるものもあった





これは鏡石/山本勘助に因むものらしい





石段を上って、石垣の上で北方向を見たところ/前方の張り出している部分が天守台石垣/左下は馬場のエリア











天守台跡に上ったところ/標柱が立っている



「天守閣跡 天守閣がありましたが落雷により焼失その後再建されなかった」と記されている



西側の天守台石垣を見下ろしたところ





西側の天守台石垣から、馬場のエリアを見下ろしたところ



北西角の天守台石垣から見下ろしたところ



北側の天守台石垣から見下ろしたところ



振り返って、天守台のエリアを見たところ



さて、本丸南西側の虎口を出て、本丸の外側から石垣を見てみよう





正面が本丸南西角の石垣





































酔月橋を渡り切って、振り返って見たところ





酔月橋から右手に地獄谷を見たところ/前方に「水の手展望台」が見える



地獄谷を覗き込んだところ/天然の堀切となっている

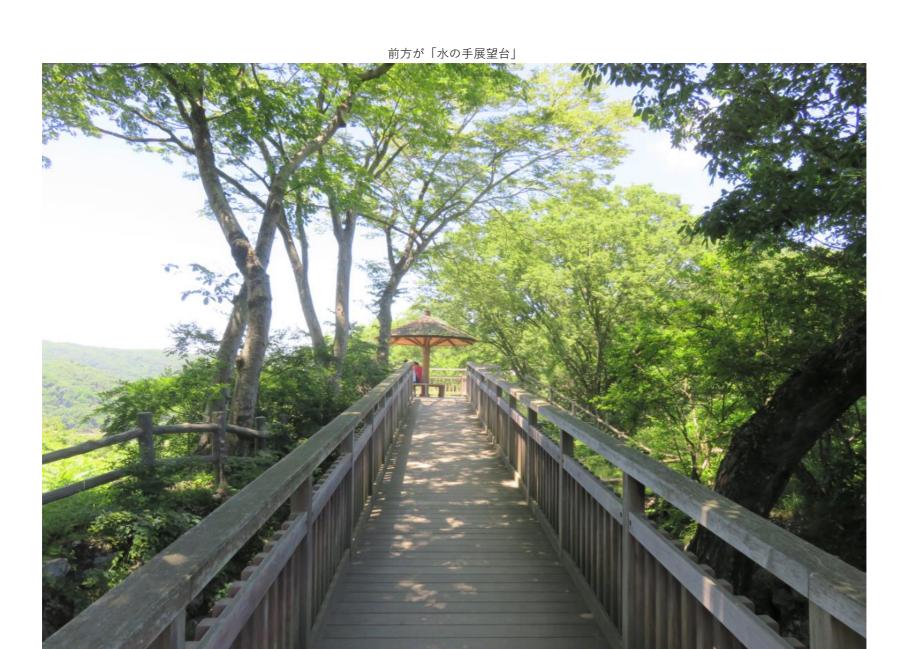
これは反対側の地獄谷を見たところ/この先は北谷となっている



さて、「水の手展望台」に進んでみよう/手前に石碑と標柱が立っている



これは藤村自筆の「千曲川旅情」の詩碑









これは「水の手展望台」から西方向を見たところ/千曲川が流れている



同じく、先程の酔月橋方向を見下ろしたところ

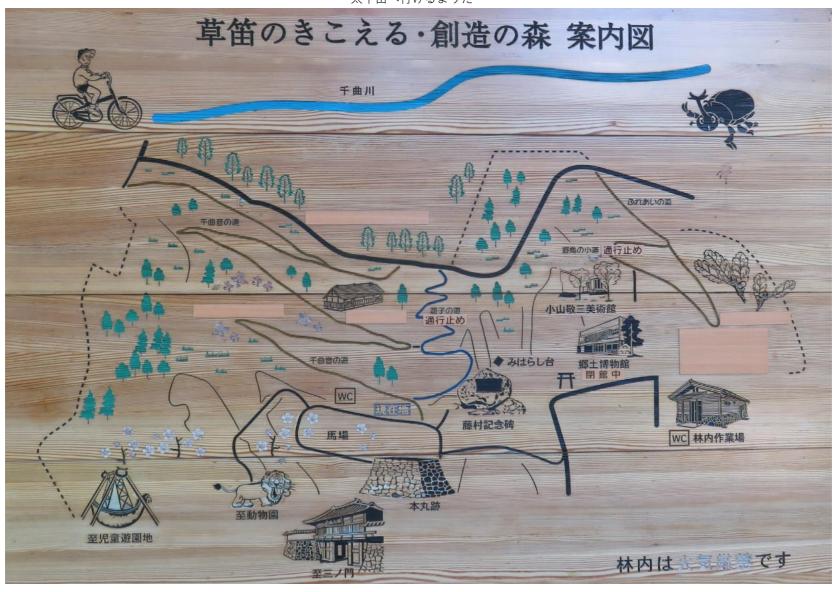






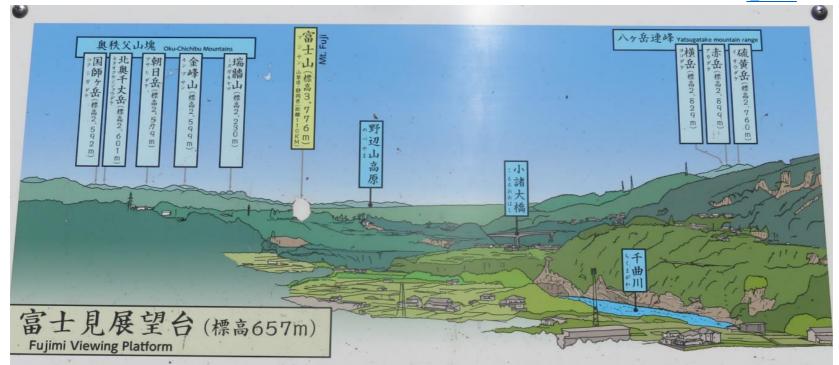


太平山へ行けるようだ



さて、ここは南西隅にある「富士見展望台」/左手の白鶴橋を渡ると動物園に行けるようだ





この場所からは、遠く距離110キロメートル先にある富士山を望むことができます。16世紀末・戦国時代、小諸城は武田信玄の支配の時期がありました。小諸城は、ここ信州から信玄の国元である甲斐の山々や富士山を眺めることのできる城でもあり、要衝の地として整備されました。

「川中島の合戦」は、甲斐の信玄と越後の上杉謙信が戦を繰り返した地ですが、川中島へ進む越後の謙信の動きを甲斐の信玄に伝えるべく、ここ小諸にも狼煙台が置かれ、狼煙は2時間足らずで伝わったと言います。

千曲川 小諸城の眼下に見おろすのは、日本一の長さを誇る千曲川です。千曲川の源流は、富士山の見える方向の左に連なる奥秩父山塊で、全長367キロメートル、長野県から新潟県に流れ信濃川と名を変えて日本海に注ぎます。また、奥秩父山塊は、長野県と山梨県、埼玉県にまたがり太平洋に流れる水との分水嶺でもあります。

こちらが動物園への入口





さて、ここは二の丸跡から見えた駐車場/このエリアは陵神郭と云うらしい





右上が二の丸跡 🖅 video





小諸藩城代家老屋敷跡/鍋蓋城跡

ここは、戦国時代のはじめの1487年に、大井伊賀守光忠により小諸の町にはじめてつくられた鍋蓋城の跡です。その後、小諸が武田氏の支配下になったときに、この鍋蓋城を取り込むように街道がつくられました。街道沿いにまわりの村から人々を移して(「村寄せ」という)、城下町の原形ができました。同時に、小諸城の原形が今の懐古園の場所につくられました。

江戸時代には、この場所は小諸藩の城代家老の屋敷として使われました。城代家老とは、一番位の高い家臣です。お殿様が江戸にいる時には、その代わりに藩を仕切る役目です。石垣で固められた屋敷がまえは、それ自体が小諸城を守る「城郭」の役をはたしていました。またこの屋敷を囲むように北国街道がつくられており、屋敷の石垣は町人地と武家地を隔てる仕切りの役目もしていました。

今ある建物は、昭和になって宿泊施設として建てられたもので、現 在は解放されていません。 現代の地図の上に 延宝2年(1674年)の地図を 赤で重ねました。

参照:小諸誌史歷史編(三)



NPO 法人 小諸町並み研究会

これは付近にあった北国街道の表示



参考ホームページ

http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/016nagano/030komoro/komoro.html

http://yogokun.my.coocan.jp/nagano/komoroosi.htm

http://www.takakurashoten.sakura.ne.jp/castle/koushinetu/komoro/komoro.html

http://www.zephyr.dti.ne.jp/~bushi/siseki/komoro.htm

http://www.hat.hi-ho.ne.jp/moch/castle/castle 41.htm

http://sano567.my.coocan.jp/2/komorojyou/

http://www.asahi-net.or.jp/~QB2T-NKNS/komoro.htm

https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/zhang-ye-xian/xiao-zhu-cheng

http://tutinosiro.blog83.fc2.com/blog-entry-1742.html

